

第43回 我孫子市放射能対策会議 会議概要

- 【場 所】 市長応接室
- 【日 時】 平成26年4月16日（水）10：00～
- 【出席者】 市長、副市長、総務部長、企画財政部長、健康福祉部長、子ども部長、環境経済部長、環境経済部参与、都市部長、建設部長、秘書広報課長、健康づくり支援課長、保育課長、クリーンセンター長、商業観光課長、手賀沼課長、農政課長、道路課長、下水道課長、公園緑地課長（代理）、放射能対策室長

（報告事項）

- （1）放射線量測定結果及び放射能に関する対応について
（各課）
- ・特に無し。
- （2）手賀沼終末処理場で一時保管されている下水道汚泥焼却灰の安全対策について
（下水道課）
- ・4月9日に千葉県庁下水道課、4月10日に手賀沼流域下水道事務所にそれぞれ出向き下記の事案を確認した。
 - ・フレコンバッグの二重化について、製造メーカーと4月1日に契約しておりフレコンバッグが出来次第対応したいとのことである。
 - ・手賀沼終末処理場地元住民に配布されたといわれている上部利用（レクリエーション施設）の資料等があれば提出して欲しい、無ければ正式に「無い」の回答がほしいと伝えた。
- （3）国による手賀沼及び流入河川の放射性物質モニタリング調査（10回目）について
（手賀沼課）
- ・環境省による10回目の手賀沼及び流入河川の放射性物質モニタリング調査結果が公表された。流入河川の底質については全体として減少傾向にある、手賀沼の底質に関しては全体として横ばい状態にある。
- （4）「東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う住民の健康管理のあり方に関する専門家会議」の今後の予定について（放射能対策室）
- ・子ども被災者支援法が施行され国は放射線による健康への影響に関する調査等に関して必要な施策を講ずることとなり、これにより専門家会議が設置された。
 - ・平成25年11月に第1回目が開催され現在までに4回行われている。
 - ・メンバーは医師を中心に17名で構成、座長は長瀧重信長崎大学名誉教授が務める。
 - ・これまでに○甲状腺被ばく：福島県小児甲状腺被ばくデータを基に評価。

○外部被ばく：福島県県民健康管理調査を基に評価。○内部被ばく：福島県によるホールボディカウンタ検査結果を基に評価。

- ・第5回専門家会議は4月24日開催、UNSCEAR（国連科学委員会）の報告などについて検討をすることになっているが、中間報告の取りまとめは12月頃となる。

その他

（農政課）

- ・25年度の我孫子市産農産物放射性物質検査の結果について

○我孫子産農産物：430件 ○学校給食食材：601件 ○合計1031件

我孫子市産のタケノコに関して、本年度も引き続き国から出荷販売・譲渡等の制限を受けている。現在、出荷等制限解除に向けて、タケノコ50検体の検査を始めており、すべて安定して100ベクレルを下回れば解除に向けて厚生労働省に対し必要な手続きを進めていく。この結果により27年度の販売の可否が決まる。

（商業観光課）

- ・25年度の市民が持ち込む食品放射性物質検査の結果について

○食品検査：1041件

基準超過検査品は大幅に減っている。